

「人を対象とする生命科学・医学系研究についての情報公開文書」

研究課題名：機能性下垂体腺腫の摘出手技における摘出技術の詳細な分類

・はじめに

下垂体腺腫に対する経鼻的手術は、以前は顕微鏡を用いた手術が行われていましたが、視野が広く安全性の高い内視鏡下手術が導入されるようになり、現在内視鏡下手術が主流です。内視鏡下手術では、従来顕微鏡を用いた手術よりもより詳細な腫瘍剥離を行うことが出来ます。特に機能性下垂体腺腫(末端肥大症やクッシング病、プロラクチン産生下垂体腺腫や甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腺腫)において、被膜外摘出という方法が既に一般化しています。ところが実は、この被膜外摘出以外にも腫瘍の摘出方法としては、被膜内摘出法や正常下垂体も少し含めた摘出方法(特にクッシング病の場合にはこの方法が必要になります)など、専門家の間で詳細な摘出方法について、議論が行われています。今回私たちが様々な腫瘍の形状や性状に応じて手術中にも形状や硬さを考慮しながら、最適と考えて行ってきた摘出方法に関して振り返り、特に詳細な摘出方法の種別について分類、整理して検討いたします。どの様な場合にどの様な方法が最良であるのかについて深く検討いたします。これにより、様々な機能性下垂体腺腫に対して、最も適した手術技術を提供できるようになります。

こうした研究を行う際には、診断や治療の経過中に記録された病名、投薬内容、検査結果など人の健康に関する情報(「情報」といいます)を用います。ここでは、既に保管されているこうした情報の利用についてご説明します。

・研究に用いる試料や情報の利用目的と利用方法(他機関に提供する場合にはその方法を含みます)について

群馬大学医学部附属病院脳神経外科で通常の診療として手術を受けられた下垂体腺腫の患者さんの臨床データについて、術前の診断、術前画像、手術の様子、術後の状態や病気の寛解について調べるため、電子カルテを用いて調査いたします。

・研究の対象となられる方

群馬大学医学部附属病院脳神経外科において2018年7月1日から2021年1月31日までに成長ホルモン産生下垂体腺腫、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腺腫、副腎皮質刺激ホルモン産生下垂体腺腫、プロラクチン産生下垂体腺腫に対する経鼻

的下垂体手術を行う為、当院に入院した 24 名の患者さんを対象とします。対象となることを希望されない方は、相談窓口（連絡先）へご連絡ください。代諾者の方からのご連絡も同様に受け付けます。（代諾者とは、未成年者の場合、親権者とし、十分な判断力がないと客観的に判断される成年者、亡くなられている方を含むその他の場合、子または親など血縁者とします。）希望されなかった方の情報は、研究には使用しません。ただし、対象となることを希望されないご連絡が、論文等に公表される以降になった場合には、ご希望に添えない可能性があることを了承ください。

・研究期間

研究を行う期間は医学部長承認日より 2028 年 2 月 31 日までです。

・研究に用いる試料・情報の項目

群馬大学医学部附属病院脳神経外科で通常の診療として手術を受けられた下垂体腺腫の患者さんの臨床データ（診断、手術の様子、血液データや画像データ）について、電子カルテを用いて調査いたします。

・予想される不利益(負担・リスク)及び利益

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。また、本研究により対象者となった患者さんが直接受けることのできる利益及び不利益(リスク)はありませんが、下垂体腺腫における内視鏡下経鼻手術に関して有益な情報を得ることが出来る様になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性があると考えています。対象者に対する経済的負担又は謝礼はありません。

・個人情報の管理について

個人情報の漏洩を防ぐため、群馬大学医学部附属病院脳神経外科においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしています。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は含まれません。

・試料・情報の保管及び廃棄

この研究により得られた臨床情報は、群馬大学医学部脳神経外科で使用ソフトにパスワードを設定し外付けハードディスクに保存します。ハードディスクは

院内の鍵のついた部屋である臨床研究棟 B 脳神経外科セミナー室内の鍵付きの机に、管理責任者（登坂雅彦）が保管、論文発表後は 10 年間保存し、保存期間が終了した後に個人を識別できる情報を取り除いた上で廃棄（データを消去）いたします。

・研究成果の帰属について

この研究により得られた結果が、特許権等の知的財産を生み出す可能性があります。その場合の特許権等は研究者もしくは所属する研究機関に帰属することになり、あなたにこの権利が生じることはありません。

・研究資金について

この研究を行うために外部資金の提供はありません。研究費も使用しません。

・利益相反に関する事項について

研究グループが公的資金以外に製薬企業などからの資金提供を受けている場合に、臨床研究が企業の利益のために行われているのではないか、あるいは臨床研究の結果の公表が公正に行われられないのではないか（企業に有利な結果しか公表されないのではないか）などといった疑問が生じることがあります。これを利益相反（患者さんの利益と研究グループや製薬企業などの利益が相反している状態）と呼びます。この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ております。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保ちます。

・「群馬大学 人を対象とする医学系研究倫理審査委員会」について

この研究を実施することの妥当性や方法については、多くの専門家によって十分検討されています。群馬大学では人を対象とする医学系研究倫理審査委員会を設置しており、この委員会において科学的、倫理的に問題ないかどうかについて審査し、承認を受けています。

・研究組織について

この研究は、群馬大学脳神経外科に所属の研究者が主体となって行っています。この研究を担当する研究責任者、研究分担者は以下のとおりです。

研究責任者

所属・職名：脳神経外科 准教授

氏名：登坂雅彦

連絡先：027-220-8515

研究分担者

所属・職名：脳神経外科 助教

氏名：山口玲

連絡先：027-220-8515

所属・職名：脳神経外科 教授

氏名：好本裕平

連絡先：027-220-8515

・ 研究対象者の権利に関して情報が欲しい場合あるいは健康被害が生じたときに連絡をとるべき相談窓口について

研究対象者がこの研究および研究対象者の権利に関してさらに情報が欲しい場合、または研究対象者に健康被害が発生した場合に、研究対象者が連絡をとる担当者は下記のとおりです。何かお聞きになりたいことがありましたら、どうぞ遠慮なくいつでもご連絡ください。

試料・情報を研究に用いることについて、対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。研究対象者とならない場合でも不利益が生じることはありません。

【問合せ・苦情等の相談窓口（連絡先）】

所属・職名：群馬大学医学部脳神経外科 准教授

氏名： 登坂雅彦

連絡先：〒371-8511

群馬県前橋市昭和町3丁目39-22

Tel：027-220-8515

担当：登坂雅彦

上記の窓口では、問合せ・苦情等の他、次の事柄について受け付けています。

- (1) 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法 他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。
- (2) 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続（手数料の額も含

まれます。)

- (3) 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明
- (4) 研究対象者から提供された試料・情報の利用に関する通知
 - 試料・情報の利用目的および利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）
 - 利用し、または提供する試料・情報の項目
 - 利用する者の範囲
 - 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称
 - 研究対象者またはその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用または他の研究機関への提供を停止すること、およびその求めを受け付ける方法